

高校生同士の心はすぐに国境を越えた!

—3年目の韓国・明文高校との交流—

今年も1月21日(月)から24日(木)までの4日間の日程で、韓国の明文(ミョンモン)高校の生徒20名、教員3名の皆さんが角館高校を訪問し、生徒との交流をしました。一行は、本校生徒と一緒に体育や調理実習の授業を受け、冬の伝統行事体験(火振りかまくら鑑賞、体験)、スキー体験交流等を行って、本校生徒との友情を築き、日本文化の一端を体験して帰国しました。この交流の中で、明文高校の生徒の皆さんは本校生徒の家にホームステイをしました。今回は、そのホームステイを引き受けてくれた生徒の感想を紹介します。

「貴重な体験を通じて」 3年C組 鈴木 満里奈

明文高校との交流は今年で3回目ですが、今年初めてホームステイを受け入れることで、直接明文高校の方々と深く交流することができました。

私の家には、祖父母もおり、最初は家族を説得するのは大変でした。しかし、高校生活最後に貴重な体験をしたいという私の強い思いもあり、今回このような忘れることのできない体験をすることができました。

初日の歓迎会で、はじめてタヒェと対面しました。まずこの時に私は、韓国と日本のコミュニケーションに対する積極性の違いに驚かされました。私は対面の瞬間、緊張して”Nice to meet you.”と片言の英語しか話し掛けることができませんでした。あとは笑顔で乗り切ろうなどと考えていて、今後の3日間のことを考えるととても不安でしたが、すぐにその不安は覆されました。タヒェは日本語の本を片手に、私に一生懸命話し掛けてくれ、歓迎会の終わる頃にはもうすっかり打ち解けることができました。

2日目、いよいよ私の家にタヒェが来ました。私の家族と初めて対面した時、タヒェは日本語で挨拶をしてくれました。前の日より日本語が上達しているようにも感じ、すごいなあとただ感心するばかりでした。私も韓国語の本を片手に、タヒェに覚えた韓国語で積極的に話し掛けようとし、自分でもコミュニケーションに対しての積極さが前よりも増していると実感することができました。同時に、伝えたいことが相手に伝わったときに感じる喜びもタヒェと分かち合うことができました。また、家族と一緒に食事をし、会話しているときは、全く違和感もなく、とても楽しい時間を過ごしました。この日は夜中の2時までお互いの色々な話に夢中になってしまいました。本当に楽しすぎて、まるで修学旅行のような気分でした。初日の夜には、もうお互いに本がなくなっていて、全然会話に困ることはありませんでした。

ホームステイの期間は約2日間でしたが、本当に本当に楽しくて仕方ありませんでした。一緒に食事をしたり、温泉に行ったり、買い物をしたり……。あっという間の時間でした。

最終日、タヒェが私の家から出発するときには、本当に寂しさというものを感じました。私の家族が見送る際に、今でも忘れることができないのは、あの祖父と祖母が、タヒェに「また来てね」と話し掛け、目を見たら涙でいっぱいだったことです。この瞬間に、私だけでなく、タヒェと私の家族は本当に心が通じ合ったんだと思い、なんだか涙がとまりませんでした。

私は高校生活最後に、忘れることができないくらい貴重な体験ができ、本当に嬉しく思います。また、このような貴重な機会を与えてくれた先生方にも本当に感謝したいです。家ではもう、家族全員が韓流ブームになっています。



定時制では時間に制約があり、残念ながらホームステイを受け入れることができませんでした!しかし、なんとかして韓国の人たちを喜ばせたいと考え、グラウンドに大きな「かまくら」を作って歓迎することにしました。テージセー全員で作りはじめたかまくらは、約一週間ほどで完成しました。当日は手作りの甘酒やミカンなどを振る舞い、大勢の方に喜んでもらいました。今回は生徒会長、加藤優一さんの感想を紹介します。

「雪遊び～みんなのかまくら」 定時制課程生徒会長 2年 加藤優一

今年も韓国の明文高校の皆さんが訪問されるということで、定時制では生徒、先生方全員参加で、歓迎の気持ちと積極的な交流をしたいという思いを込めて「かまくらづくり」の計画を立てました。登校時間が遅く、放課後のない私たちは、授業開始前のわずかな時間を使って作業をしました。製作日数は約一週間。暗くなったグラウンドでの作業には、ナイター設備をフル稼働して取り組みました。土台固めをし、しっかりとした基礎の上に雪を積み上げるのですが、これが大変でした。去年と比べて雪の量は豊富でしたが、スノーダンブで運んだ雪を上へ積み上げるのに一苦労しました。作業期間中は気温が低かったために雪質が粉雪状態で、積み上げてなかなか大きくなりません。急ぎょホースとジョウロを用意して、積み上げては水をかけ、積み上げては水をかけ、雪を押し堅めながらの作業に丸二日費やしました。

その頃になるとみんなにも少し余裕のようなものができ、あちこちに雪だるまを作ったりして作業を楽しむことができました。そのうちに「グラウンドに降りる階段を整備しよう」だとか「メインステージを作ろう」だとか、「歓迎の看板を雪で作ったら喜ばれるんじゃないか」「甘酒を作ってふるまおう」といったアイデアがわき起こり、結局そのすべてを実行しました。なんだか「ミニ雪まつり」の会場のようによく雰囲気になったのです。

当日は明文高校の皆さんも大変喜んでくださった様子で、私達も安心しました。終わってみれば、全員で作った大きなかまくらは、私達自身の交流の大きな思い出になりました。



1月24日(木)の「お別れ会」にて

安全・安心な生活のための 貴重な財源「道路特定財源」

道路特定財源とは？

自動車利用者にガソリンや自動車にかかる税金を負担していただき、道路整備のためのお金を確保する制度、これを「道路特定財源」といいます。

道路特定財源の確保

道路特定財源の税率は、道路整備を推進するために、暫定的に高く(2倍前後)設定されています。

しかし、この暫定税率が、平成20年3月末で期限切れとなります。政府・与党は「道路特定財源」の見直し案に正式に合意しました。今回の見直しの争点は「暫定税率の維持」です。

暫定税率を維持するための法案が年度内に成立しない場合には、4月からガソリンや軽油の価格が下がります。生活必需品の価格が上昇している中で、一見ありがたいことに思えます。仮にそのまま暫定措置が廃止されると、当市では、約1億7千万円(平成18年度決算)の減収が見込まれます。

その結果、市道の整備や維持管理にも大きな影響を与える可能性も否定できないほか、4号角館バイパス工事等国県の実施している工事にも影響すると思われます。

また減収するため、市の財政が悪化し、福祉、教育等の行政サービスを切り詰めなければならず、住民サービスの低下も懸念されます。

道路は、生活や経済・社会活動を支える社会基盤であり安全・安心な町づくりに欠かすことができない重要な施設です。

今後とも市民の要望に応え必要な道路整備を進めるためには、安定した道路特定財源を確保する必要がありますので、市民の皆様のご理解をお願いします。

「将来の道を確認できた交流」 2年E組 千葉 るり

私は、昨年の冬は本校で、夏は秋田県高校生海外派遣研修として明文高校で、今年の冬はまた本校でと、3回の交流を体験しました。

昨年の夏に私がホームステイを体験した家庭のキム・ダソムをはじめとし、交流のあった明文高校生が来日するというので、とてもわくわくしていました。メールでは毎日のように連絡を取っていましたが、彼女の姿を見るのは約半年ぶりだったので、空港で再会したときは込み上げてくるものがありました。皆元気そうで安心しましたし、日本語を話せる生徒がたくさんいてとても驚きました。再会ということもあり、お互いの家族の話や学校生活の話など、話題が尽きませんでした。

「ゆぼぼ」での歓迎会が終わり、その日は私も「ゆぼぼ」に宿泊しました。夜遅くまで韓国流のトランプで遊んだり、勉強時間の違いに驚いたり、すごく楽しい夜を過ごしました。2日目の伝統行事体験では、初めてのものばかりですごく感動しているようでしたし、私も自分の地域の伝統を再確認できたと思います。

ホームステイでは、お互いに顔も知っていたので、すぐに仲が深まりました。特に私の4歳の甥は彼女たちにべったりでした。3日目のスキー体験では、午前の基礎練習があったおかげで、午後からたくさん滑ることができました。最後のリフトに乗っている時、ダソムが”Ruri, we are best friend!”と言ってくれた時、ものすごく嬉しくて、感動して言葉が出ませんでした。ホームステイ最後の夜は、家族で外出し、楽しい時間を過ごしました。4日目は、彼女たちと空港まで一緒に行きました。バスの中ではいろいろな生徒とお互いの国の話をしたり、将来の夢の話をしたりと最後の最後まで交流することができました。別れの時は悲しくて離れたくありませんでしたが、これが一生の別れにならないように、必ずお互いの国で再会できるように約束しました。

今回の交流を通して、改めて自分の将来の夢を確認できました。私は将来、日韓に関わる職業に就きたい。そしてこの交流を役立てたい。そう思えた交流でした。そのためにも、今よりもたくさん韓国文化を学び、韓国語を学び、胸を張って彼女たちに会いに行きたいと思います。

日が暮れてからの作業には照明が大活躍。作業に熱中して汗ばむことを忘れてしまったり…
＝制作現場の様子(角館高校グラウンド)



当日は甘酒やミカンなどを振る舞い、かまくらの周りにはたくさんの人が集まってくれました。
＝角館高校グラウンド

仙北市道路特定財源税収額

(H18決算ベース:県道路課試算による)

